

根白報

人口のうごき

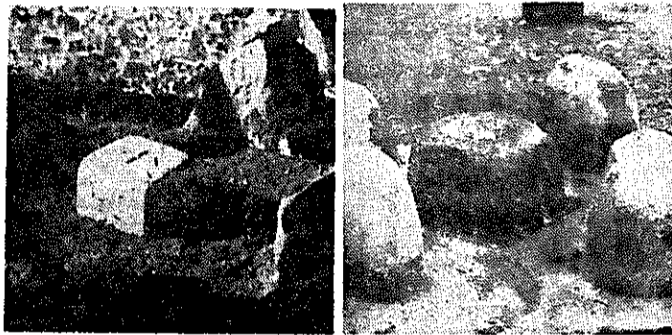
(5月1日現在)	(4月中)
人口・33,403	出生・60
男・16,032	死亡・25
女・17,371	転入・149
世帯・6,544	転出・269

基準標石をたいせつに

地震予知などにも活用

見晴らしのよいところや、国道のかたわらなどに写真のような石をよく見かけます。これは測量法で定められている永久標識で、地図の作成や土地の測量などの基準点になつてゐるたいせつなものです。

写真をご覧ください。上面位置が非常に高い精度で求めに十の刻まれているのが三角点、球分のあるのが水準点です。この二種類の石は永久標識のなかで最も代表的なもので、昔から花こう岩を用いていました。最近はいちゅう製の金属標も使用するようになりまし。また、平地には三角点の代わりに同じ性格をもつている多角点も設けられてゐます。



三角点標石 水準点標石

三角点の位置は、この図の作成や公共事業などに必要な測量の基準となる、極めて重要なものであることから、通常いづれも基準点と呼ばれてゐます。これらの標石は、一見すると宅地の境界線とほとんど変わらない形をしてゐますが、地球上の

位置が非常に高い精度で求められてゐます。たとえば水準点を設けるためには、多額の費用と高度の技術が必要で、から、すべて国の事業として行なわれてゐます。すなわち三角点や水準点は、あらゆる測量の基準となることも、宅地などの境界線のもとにもなる、科学的な重要文化財ともいえます。

昭和二十六年から土地の面積を正確に再測定してゐる事業があり、これを国土調査法による地籍調査事業といふ。これは明治政府が個人の土地の所有権を明確にするため、全国的な土地調査を

行ない、字限図(あざきりず)を作り、その土地の測量技術が非常に低かつたことなどから、これを全国的に統一した。これを全国的に統一された基準点をベースに作りかえようといふものです。

また、日本経済の発展に伴ふもなう公害のひつとに工業地帯の地盤沈下があります。これについては水準点の高さをくり返し測量することによつて、始めて科学的な対策を立てることができ、防災図ともいわれてゐる土地利用図も作ることができ、このほか都市計画や道路事業などの公共事業を実施するうえにも重要な役割を果たしてゐます。

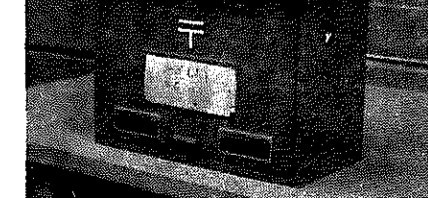
近時とくに新しい課題として、地震予知研究の問題が大きい。この研究資料として、基準点の位置のわずかな変化が

部について五千分の一や二千五百分の一の国土基本図を作つてゐる。このためには二キロメートルの一点の割り合いで三角点が必要となり、この作成計画にしたがって四等三角点などを毎年増設してゐます。

日本のように国土の狭いところでは、とくに国土の総合開発、土地利用の高度化をはかる必要があり、このため目的に応じた大縮尺の地図を作り、科学的に周到な計画をたてなければなりません。

以上のことから基準点は、地図作成や公共事業、地震予知などに欠くことのできないものであり、私たちの日常生活に深くつながりがあることがわかります。これからは、これらの標石をより一層たいせつに保護していただきたいのです。また、心ない人が標石を破損しようとしてゐるのを、それをやめさせるよう積極的に説明してあげてください。

「郵便を早く、安全に配達するため、郵便受け箱と表札をつけてください……」と郵便局では皆さんの協力を呼びかけてゐます。この二の二の月、郵便受け箱と表札の状況を調査したところ、次のような結果がわかりました。



どから守り、表札は配達を早くまわがなくなりました。白根郵便局ではこの郵便受け箱(写真)と表札を、次のとおりあつせんしていただきます。希望される場合は近くの郵便局へ申し込んでくださいます。

市民の声を市政にと

市政モニターを募集

みなさんの意見を市政に反映させようと、市では「市政モニター」を次の方法で募集してゐます。

応募資格は二十歳以上の市民(公務員は除く)任期一年

仕事の内容は年に二、三回のモニター会議に出席して、いろいろの意見をお聞かせいただくほか、二カ月に一回アンケートに回答していただきます。

報酬は月額二千元、ほかに人件費(新潟市一番通り町分館内)に請求していただきます。郵便で請求する際は封筒の表に赤字で「上級、中級申し込み用紙請求」と書き、十五円切手をはってあて名を書いた返信用封筒を必ず同封してください。申し込み用紙を郵送する場合は、封筒の表に赤字で「上級受検」と書いてください。受け付け期間は六月九日から七月二日までです。郵便の場合は七月二日の消印のあるもので有効です。

県職員の採用試験

7月27日新潟市で

県人事委員会は次のとおり「県職員の上級および中級の採用試験」を行ないます。

第一次試験は七月二十七日に新潟市において、教養試験と専門試験を行ない、結果は八月中旬に発表され、合格者には通知されます。

第二次試験は七月二十七日に新潟市において、教養試験と専門試験を行ない、結果は八月中旬に発表され、合格者には通知されます。

第三次試験は七月二十七日に新潟市において、教養試験と専門試験を行ない、結果は八月中旬に発表され、合格者には通知されます。

第四次試験は七月二十七日に新潟市において、教養試験と専門試験を行ない、結果は八月中旬に発表され、合格者には通知されます。

第五次試験は七月二十七日に新潟市において、教養試験と専門試験を行ない、結果は八月中旬に発表され、合格者には通知されます。

自主流通米で市民大会

米作りを基幹産業としてこれからの伸びがなければならぬ本市にとって、食糧問題、自主流通米問題は大きな関心事といわなければなりません。この問題を有向に展開させ、本市農業の発展向上を図るべく、去る十七日「食糧を守る市民会議」が、青年

教育センターで開かれました。この市民会議は、昨年の秋政府が打ち出した自主流通米構想に対し、あらゆる角度から検討を加え、適切な対策を講じて行こうとするもので、十一月の末には中間結果を出すこととしてゐます。そして来年秋には最終結果を出すこととしてゐます。

本市の米質は県下一悪いといわれてゐます。事実昨年出荷された本市の産米は、ほかの市町村にみられないほど低位等級米が多かつた。ちなみに県の平均では六〇・三割が上位等級米、郡では三九・四割、さらに本市にいたつては二六・五割しか上位等級米が出てゐません。自主流通米が問題になり、うまい米づくりに叫ばれてゐる今日、現状では米作りは赤信号がともる恐れもあるとして、市、農協、普及所、食糧事務所などが一体となり、去る十四日「白根市産米問題調査会」を立ち上げました。この調査会には本市産米の品質低下を招いてゐる要因を徹底的に究明し改善を図つて行こうとするもので、十一月の末には中間結果を出すこととしてゐます。そして来年秋には最終結果を出すこととしてゐます。

産米調査会が発足

消防庁舎と青年教育センターが完成

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。

消防庁舎と青年教育センターの合同しゅん工式が行なわれました。